

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学び合い、認め合い、共に高め合う児童の育成
- 主体的な学びで確かな学力につなげる授業改善の在り方

津乃峰小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長 森下稲子 教頭 小堀訓子 教務主任 久米和美 研修主任 西東秀城 三木 彩花 特別支援コーディネーター 笹田由美 人権教育主事 広瀬直美
---------	---

校長
森下 稲子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 落ち着いて学校生活をおくり、学習のきまりを守って課題に取り組むことができる。 ● 語彙が少なく、文章や問題を読み取る力が低い。	・ 読書を楽しみ、語彙を増やしたり要点を押さえて文章や問題を読み取ったりすることができる。 ・ 学んだ知識や技能を他の学習場面や生活の中で活用することができる。	・ 文章を要約する活動を取り入れる。 ・ 朝の活動において読書活動を推進し、読書の習慣が身に付くよう指導する。 ・ 生活経験が充実するような体験活動に取り組み、体験を通して身に付いた語彙力を活用できるような場を設定する。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 教師や友達の話をしっかりと聞くことができる。 ● 発問の意図を読み取り、自分の考えを発表することが苦手である。	・ 自分の思いや意見をしっかりともち、相手に伝えることができる。 ・ 互いの意見を出し合い、多様な考えを認め合うことで、みんなでよりよいものを生み出そうとすることができる。	・ 辞書や「言葉のたから箱」を利用して、書く活動を充実させ、自分の考えを明確に表現できるようにする。 ・ 互いに意見を伝え合い、考えを深められるような話し合い活動の充実を図る。 ・ タブレットやホワイトボードを効果的に活用し、互いの意見を共有したり表現したりする場面を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 課題に対し、素直に取り組むことができる。 ● 学習内容や活動状況に合わせて、見通しをもって、主体的に取り組むことが難しい。	・ 主体性をもって、各教科の学習や家庭学習に取り組むことができる。 ・ 自ら疑問や課題をもち、解決しようとする態度が身に付いている。	・ 学習のめあてを明確にすることで見通しをもてるようにするとともに、振り返る活動を設定し次時の意欲につなげる。 ・ 自主学習を推進し、教科書を活用して振り返りをしたり、新聞を用いて興味のある内容をまとめたりして、学習への意欲・関心を高められるようにする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

